

水俣学 若手研究セミナー 2011

水俣病の現在と水俣学の試み

水俣病の発生が公式に確認されてから五十六年。その間の歴史の堆積の上に、現在の水俣病をめぐる様々な制度や政策がめまぐるしく移り変わってきた。水俣病の被害者はその中を生きてきました。全国の大学では、環境問題に関する講義がおかれ、その中で必ず水俣病が取り上げられています。しかし、その一方、現在の水俣病をめぐる状況は分かりにくいとの声も聞かれます。

水俣学研究センターでは、地域に根ざし現地に学び、水俣病という負の経験を将来に生かすことを目指して、設立され、調査研究・教育に取り組んできました。今回のセミナーでは、私たちのそうした取り組みをベースに、次の世代を担う若手研究者に「水俣病事件の現在」を共有し、共に学ぶことを目的に開催します。なお、水俣学のモットーである現地に学ぶことを大切に、座学ばかりではなく現地でのフィールドワークを大切にします。

水俣病を直接研究テーマにするだけでなく、人類の負の遺産としての水俣病を学び、自分自身の研究活動に活かすことを目指す参加者を募集します。



2011年

9月1日(木)
～4日(日)

募集人数 20名
受講料無料

*水俣までの交通費及び水俣での宿泊費は各自でご負担ください

主会場
水俣学
現地研究センター
(熊本県水俣市浜町 2-7-13)

お問い合わせ先
熊本学園大学
水俣学研究センター
tel :
096-364-8913
e-mail :
minamata@kumagaku.ac.jp

プログラム概要

9月1日(木)

午後

水俣がはじめての人向けの水俣現地案内
開会式および趣旨説明、参加者自己紹介
セミナー① 水俣学研究センターの試み
セミナー② 水俣病患者と50年
受講者による発表と討論
懇親会

9月2日(金)

午前

セミナー③ 水俣病と地域社会
セミナー④ 水俣・芦北の地域戦略

午後

フィールドワーク① 水俣を見る

9月3日(土)

午前

セミナー⑤ 水俣病事件史と法
セミナー⑥ チッソと水俣病

午後

フィールドワーク② 水俣病を聴く
参加者による討論会

9月4日(日)

午前

セミナー⑦ 教育と水俣病
参加者による討論会

午後

オプションツアー：曾木発電所

講師陣と担当講義(50音順)



淡路剛久 早稲田大学教授
水俣病事件史と法



花田昌宣 熊本学園大学教授
水俣学研究センター長
水俣学研究センターの試み



丸山定巳 熊本学園大学教授
水俣病と地域社会



山下善寛 元新日窒労組委員長
チッソと水俣病



田中睦 水俣市立第一小学校教諭
教育と水俣病



原田正純 医師
水俣学研究センター顧問
水俣病患者と50年



宮北隆志 熊本学園大学教授
水俣学現地研究センター長
水俣・芦北の地域戦略

その他、フィールドワークやオプションツアーでの案内については、これら講師のほかにも、水俣学研究センター関係者や水俣の住民が担当することもあります

応募資格・方法

- 応募資格：**①大学院生あるいはPD、またはそれに相当する研究歴を有し、積極的に参加する意思を持つ者
②大学などにポストを有する研究者で、水俣病に関心を有する者
③卒業研究において水俣病等を課題としている学部生で、指導教員の推薦を得た者
*これらに該当しない場合はご相談ください

- 提出書類：**①略歴書(所定の書式を使用、メールアドレスを明記)
②自分の研究テーマ(1200字程度で記載、様式自由)

応募締切：2011年7月30日[土]

受講者の決定：8月中旬に通知します(定員を超えた場合は、応募書類にもとづき水俣学研究センターにおいて選抜をします)
*受講者はセミナーの全日程に参加することを前提とします
*セミナー開催期間中の宿泊場所については、宿舍の紹介はいたしますが、各自で手配をお願いします

応募・問い合わせ先

〒862-8680 熊本県熊本市大江2丁目5-1 熊本学園大学水俣学研究センター
tel:096-364-8913 / e-mail:minamata@kumagaku.ac.jp